**社説たそがれ**2020/6/18

猛威の疫病　戦後最大の緊急事態　世界に展開

人は様々　住むところも様々　受け取り方も様々

騒いで「なんぼ」の　紙面やTVのメディアも

この状況は「潤滑剤」らしく　活気ついており

その本丸　新聞社の社説を　時系列で整理を試みる。

この時期　社説は何を言いたいだろうか？

他人が見れば　？な作業ではあるが　違う世界も覗け

社説執筆者のレベルも判断でき　それなりに　意外と思う発見も。

**社　説**（比較的中立と見做されるらしい某全国紙）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **日　付** | **問題点（⇒タイトル）** | **社説ポイント** |
| 2/29 | 新型肺炎： | 医療と経済に全力で取り組め |
| 世界株安： | 市場動向を冷静に見極めたい  何もしないということ？ |
| 3/31 | 封鎖広がる世界： | 「自国第一」では勝てぬ |
| 外国籍の子供： | 就学支援の体制準備を急げ |
| 4/1 | 五輪日程決定： | 開幕までの時間を生かしたい（？） |
| 再審無罪： | 冤罪生んだ警察の「証拠隠し」 |
| 4/2 | 日銀３月短観： | さらなる悪化に備えた対策を |
| 地方議員の確保： | 地域事情踏まえ手立て講じよ |
| 4/3 | 専門家会議見解： | 都市部の医療体制守る対策を |
| 休校の継続： | 子供の不安最小限に抑えたい |
| 4/4 | 緊急事態宣言： | 「都市封鎖」との誤解を解け |
| 4/5 | 自衛隊の活動： | 検疫や輸送支援の態勢整えよ |
| 介護保険２０年： | 制度の維持へ不断の見直しを |
| 4/6 | 文化行事の自粛： | 活動の灯絶やさぬよう支援を |
| 発送電分離： | 利用者に恩恵を届けられるか  恩恵は独裁国家での手段 |
| 4/7 | 施設・自宅療養： | 患者の不安軽減する対策を |
| 決算と株主総会： | 実情踏まえ柔軟に対応せよ |
| 4/8 | 緊急事態宣言： | 感染抑止に協力し医療守ろう　　　　　冷静な対応で社会の混乱を防げ |
| 4/9 | 緊急経済対策： | 早く確実に支援は届くのか　　　　　　実施の態勢を早急に整えよ |
| 4/10 | テレワーク： | 上手に活用し密集を避けよう |
| 武漢の遮断解除： | 都市封鎖の教訓が生かされた |
| 4/11 | 都の休業要請： | 国と連携しつつ対策を進めよ |
| 日米安保協力： | 感染の危機下でも抑止力保て |
| 4/12 | 米大統領選： | 感染拡大で争点が明確化した　　？ |
| 4/14 | コロナと大学： | 遠隔授業を有効に活用したい |
| 熊本地震４年： | 被災者の見守り継続が必要だ |
| 4/12 | 航空会社の支援： | 世界つなぐインフラ守りたい |
| 4/15 | 緊急事態１週間： | 感染機会減らす一層の努力を |
| 原油減産合意： | 価格の安定へ協調を続けよ |
| 4/16 | 医療提供体制： | 崩壊阻止へ最優先で取り組め |
| コロナ便乗犯罪： | 不安を突く悪意に注意したい |
| 4/17 | 緊急事態全国へ： | 感染の波及を食い止めたい　　　　　　スピード感（？）持って経済支援を |
| 4/18 | 揺らぐ世界経済： | 感染抑止し不況克服を目指せ |
| 韓国与党圧勝： | コロナ危機を追い風に変えた |
| 4/19 | 途上国支援： | 協調して感染の拡大を防げ |
| 危機下の指導者： | コロナ対応で何を語るべきか　　？ |
| 4/20 | 大型連休： | 密集避ける過ごし方の工夫を |
| 改正民法施行： | 適切な運用で消費者保護図れ |
| 4/22 | ＰＣＲ検査： | 病院に負担かけず拡充を図れ |
| １０万円給付： | 早く届ける努力と工夫を重ねよ |
| 4/23 | コロナ過剰反応： | 偏見は社会不安しか生まない |
| オンライン診療： | 上手に活用して感染避けよう |
| 4/24 | 住民への支援： | 自治体職員の底力が問われる　　？　　　優先度を見極め、出来るだけ住民サービスの質を落とさないようにすることが重要だ |
| 逆風のＷＨＯ： | 今は国際社会が支えるべきだ  ＷＨＯは批判を重く受け止める必要がある（？） |
| 4/25 | 外国人労働者： | しわ寄せ許さず支援の手を |
| 強権統治の加速： | 「感染症」で正当化は出来ぬ |
| 4/26 | 子供の自宅学習：支える手立てを尽くしたい | 出来得る限りの学習支援策を講じたい　セキュリティー対策に万全を期してもらいたい |
| 4/27 | コロナ雇用対策： | 使い勝手をさらに改善したい　　？　　　　政府は支援策の恩恵が迅速に行き渡るよう最善を尽くすべきだ |
| 食料輸出規制： | 安定供給へ国際協調強めよ（？） |
| 4/28 | 企業向け融資： | 銀行は中小・零細支援に動け　　　　　官民連携によるきめ細かな対応（？）が欠かせない |
| 衆院補欠選挙： | 感染抑止し投票の環境整えよ |
| 4/29 | 大型連休： | 密集避ける過ごし方の工夫を |
| 改正民法施行： | 適切な運用で消費者保護図れ |
| 4/30 | 南シナ海の緊張： | 中国は感染症危機に乗じるな |
| コロナ不安： | 心の相談広く汲み取りたい　　　？ |
| 5/1 | 天皇即位１年： | 試練の時代に着実な歩み |
| 補正予算成立： | 政策総動員し家計と企業守れ |
| 5/2 | 緊急事態延長へ： | 感染防止の努力を続けたい　　　　　　政府は出口戦略の検討を始めよ |
| 5/3 | 憲法記念日： | 非常時対応の論議を深めよう　　　　　権限行使の根拠や手続き定めよ |
| 5/4 | NPT会議延期： | 核軍縮の機運をどう高めるか　　？ |
| 自宅で文化体験： | 未知の分野と接する機会に |
| 5/5 | 緊急事態延長： | 医療体制整え長期化に備えよ |
| こどもの日： | 将来の夢を語り合う時間に（？） |
| 5/6 | 原油市場混乱： | 追加減産で価格の安定を図れ　　　　　感染症を蔓延という不測の事態は（産油国の）自業自得 |
| 5/9 | 欧米の制限緩和： | 感染「第２波」をどう抑えるか |
| 刑事裁判の延期： | 段階的な再開へ工夫を凝らせ |
| 5/10 | 罵倒の横行： | ウイルスより怖い傷つけ合い |
| 北朝鮮情勢： | 監視と圧力の継続が必要だ |
| 5/11 | 少子化対策大綱： | 若者が希望の持てる環境を作ろう |
| 米中とコロナ： | 発生源論争で混乱を深めるな |
| 5/12 | 災害時の感染症： | 避難先の安全性対策徹底したい |
| 銀行の手数料： | 利用者の負担軽減につなげよ |
| 5/13 | コロナ治療薬： | 安全性に配慮し導入進めたい |
| 中国の一帯一路： | 感染症を機に軌道修正を図れ |
| 5/14 | 家賃支援策： | 負担にあえぐ店舗の救済急げ |
| 大学生の就活： | 企業は弾力的な対応で配慮を |
| 5/15 | 緊急事態の解除： | 油断せず段階的に活動再開を |
| ２次補正指示： | 危機回避へ安全網を強化せよ |
| 5/16 | 学校再開へ： | 感染防ぎつつ遅れの挽回を |
| 厳しい企業決算： | 新たな「日常」へ変革進めよう |
| 5/17 | 接触確認アプリ： | 活用には丁寧な説明が必要だ |
| 強制不妊救済法： | 周知進め被害の掘り起こしを |
| 5/18 | 妊婦とコロナ： | 安全な出産へ細やかな配慮を |
| 子供の自殺増加： | 見守り体制の充実が急務だ |
| 5/19 | GDPマイナス： | 消費促す環境作りが重要だ |
| 検察庁法改正案： | 人事の自律性保てる見直しを |
| 5/20 | 感染症対策： | 国と自治体は連携し出口探れ |
| 再処理工場合格： | 核燃料サイクルの道筋を示せ |
| 5/21 | 一律１０万円： | 給付の遅れを早急に改善せよ |
| 国際防疫体制： | 台湾の知見を共有すべきだ |
| 5/22 | 関西圏宣言解除： | 警戒緩めず東京も収束目指せ |
| 検事長辞職へ： | 検察は体制を早急に立て直せ |
| 5/24 | 新興国経済： | 資金流出による通貨危機防げ |
| 高校スポーツ： | 成果を披露する場設けたい |
| 5/25 | 在留邦人支援： | 機動的な対処で安全確保を |
| 宇宙の監視： | 抑止力強化へ知見を高めよ |
| 5/26 | 緊急事態解除： | 経済を回復軌道に乗せたい  感染症に強い社会を構築せよ |
| 5/27 | 大学入試： | 柔軟な運用と工夫が必要だ |
| プロスポーツ： | 感染防ぎつつ段階的な再開を |
| 5/28 | ２次補正決定： | 動き出した経済を支えたい |
| 戦没者遺骨収集： | 鑑定体制の強化で信頼回復を |
| 5/29 | 香港国家安全法： | 一国二制度を踏みにじるのか |
| 憲法審査会： | 緊急時に備えた建設的議論を |
| 5/30 | 地銀決算減益： | 厳しくとも地域支える自覚を |
| 京アニ放火逮捕： | 事件の重さに向き合せよ  *放火でなく放火殺人か放火虐殺* |
| 5/31 | 揺らぐ国際機関： | 米中は自国の道具と考えるな |
| 地方の鉄道網： | インフラ守る現実策を探れ |
| 6/1 | 先端都市構想： | 丁寧な説明で住民合意を得よ |
| 脱ハンコ： | コロナ禍を慣行見直す契機に |
| 6/2 | 新興企業の支援： | 事業創造の芽を大切にしたい |
| 年金改革法成立： | 非正規労働者の不安和らげよ |
| 6/3 | ９月大学見送り： | 利点と課題を丁寧に（？）議論せよ |
| 抗原・抗体検査： | 特徴生かし感染状況の把握を　特性？ |
| 6/5 | コロナ対応病院： | 経営危機の回避へ支援を急げ |
| 慰安婦支援団体： | 活動の実態を解明すべきだ　　　　？ |
| 6/８ | コロナ禍の記録： | 後世に伝える責務果たしたい |
| 救急搬送の難航： | 患者の受け入れ先を明確に |
| 6/10 | 改正外為法施行： | 外資規制の適用基準を明瞭に |
| コロナと雇用： | 派遣切りの急増を回避せよ |
| 6/11 | 日韓世論調査： | 文政権が相互不信を広げた |
| 子の養育費： | 貧困招く不払いを解消せよ |
| 6/12 | 出生率低下： | 危機的な少子化への対処急げ |
| 窮地の香港： | 中国の国際約束違反を許すな |
| 6/13 | 2次補正成立： | 迅速かつ無駄なく執行せよ |
| 東京都知事選： | コロナ後の展望を論じたい |

欠落日：新聞休刊と、誤って廃棄処分した結果

先ずは　結論から

結論　１：社説は

①自己中心に　世間が回る「天動説」を　今なお信じる

⓶階層社会前提で成立し　上層は社説側　下層は読者とその他

③時間と勝負の　「へいっ　一丁上がりっ！」の現場

④全てに命令口調で　気合を入れるが　対策・手段を提示しない

⑤読むほどに　展開論理は　伝統的な慣用句の　文言の羅列

⑥大学入試に出ると宣伝し　治外法権的詐欺行為の　常習犯

⑦仕事をやったことのない　ヒマな文屋の　憂き世の稼業と判断。

結論　２：社説が　スローガン化している

　この危機状況に　社説執筆者とメディアは

危機の打開は　全て他人への命令と

お任せ主義で　解決できると　信じている。

そこで　一句

　他責と命令は尽きぬ　令和の御世の　かわら版

さらに　一言

　火事で　緊急出動した　新聞社お抱えの

自称・自任の消防隊員が　火と煙の中へ飛び込もうともせず

もの見たかい連中に　「早く飛込め！早く消せ！」と

自らは安全地帯にいて　連呼するだけ。

さらに　踏み込んで　二言

様々な症状の　重症患者に対し　治療可能な処方箋を

提示できないなら　世直しの医者気取りは　ヤメナハレ。

さらに　こんな思いも

「鳥獣戯画」の鳥羽僧正なら　社説執筆者を

信じてもいない　念仏を声高に　それも厳かに

お祓いを授ける　インチキ宗教の

ぷくぷくパンダ扮する　祈祷師として描く。

社説を一か月余り　フォローしていると

タイトルを見ただけで　何を書きそうか　想像が可能となり

誰でも　この程度の内容は書けるので　試されよ。

さらなる問題は　具体的で実現可能な対策の提案が　ないこと

理由は　書けないのか　書こうとしないのか

これは　能力の欠如であるか　書かせないのか

執筆者を責めても　改善は期待できない。

さらに　読み取れることは

１．問題点のタイトル化

２．それへの対応の明確化（対応策レベルではない）

３．表では省略したが　状況の解説を述べる

までは　定石どおりでだが

４．くどいようだが　肝心の締めである

具体的で今現在可能な　対応策の提示がない。

一例として

4/24「逆風のWHO:今は国際社会が支えるべきだ」

内容は

トランプ大統領が主張する

米国のWHO拠出金（世界１位で22% : 2019年）停止発言を

行き過ぎと非難し　国際協調を維持する機運（？）が

欠かせないと提案しているが、

この社説に欠けているのは、WHOには：

①拠出金の収支を監査する組織が　内部にも外部にもない

⓶管理・監督者（つまり　上層部）の給与の非公開

③各国はメディア対応で「払う」と発表するが

　「払った」ものを「受け取った」かを

　第三者が確認する手立てがない　組織であり

④昨年のWHOへの上位２０ヶ国

（日本３位　２６０億円）以外の

　１７３ヶ国は　一括して拠出国々とされ

　国平均で２．８億円。

⑤テドロス理事長の出身国エチオピアは　この程度か

それ以下の拠出金で　理事長に収まり

新型コロナウイルスのように　中国を後ろ盾に

今や猛威を振るう現状と　彼の成り立ちを

社説なら　深入りの追求をすべきだが

敢えて　切り込まずに　「忖度」していると読み取れる

⑥トランプは　「今後、エチオピア並みに拠出する」と言えば

　インパクトと効果はあったが　大統領は　好機を逸した

⑦社説風に　「日本も早急に万全の体制で　拠出金の見直しをせよ」

⑧拠出国上位５位で　国際基準の会計検査の実施を

提案し実現するまで　拠出金の支払いと受入れを停止

と社説は主張すべき。

外国や世界機関に対する　日本と日本人の

染みついた「性善説」は　認知症老人が

いつ迄経っても被害にあう　「振り込め詐欺」被害と同類。

だが　執筆者の言い分も　聞かねばならない。

刷り上がり　世に出る社説には

執筆担当の委員が　主張を文章化して

委員長や主筆による　最終チェックと　すり合わせ。

ここに介入するのが　上司や社方針への　これまた「忖度」。

仮に　正しいと思い　自己主張にすがっても

閉め切り時間　正確には　閉め切り時刻　の関門があり

それを無視しての　自己主張の展開はムリで　度重なれば

やがて　執筆者は　空気の読めない奴となり

干されて　さらなる閑職へと墜落。

メディア経験の事情通によれば　信じるとして

（論説）委員は　社内で記者をして　渡り稼業もし

一人前になったと　感じ始めた頃　50代前に

後ろから押し出され　委員や論説者や解説者へ

夜討ち朝駆けの時代は　古きよき時代で

エネルギーあり　使命感ありの時代は　今や昔の話。

特派員、ワシントン総局勤務と　仰々しいが

米国や勤務国での　主要紙やメディア情報の

実態は　翻訳事務所であり　フル稼働で翻訳し

いくら鈍感でも　達成感と言うより　これが仕事か？の迷い。

外地では　記者会見で　日本人記者の発言や質問はなく

日本なら　東京新聞の望月記者を　育てるが

派遣先での　日本人記者は　NQ＆SJで

No Questions and Silent Japaneseで通用する肩書。

最も活動的なのは　中国からの記者たちで

彼等は男女とも　若くて活動的で　エネルギッシュで

会見後　会して合して群れて　騒がしく　他国の記者を圧倒し

彼らの活動は　本国でチェックされており

日本の国会で　野党の若き連中が　究明鋭く

「背中の後ろ」意識で　政権側に食いつくのと　重なる。

さて　高貴高麗の「後期高齢ルーム」へ流され

仲間・同僚・先輩・後輩も　職業柄か

エリート意識の習性か　お互いに　絶対に打ち解けず

「ルーム」ではなく　格上の「チェンバー」と称し

エリート目線は　今なお高い。

社説などは　３０分もあればの　鍛えし冴えワザでつくり上げ

ヒマに任せて　社内をひやかし廻り 他者には邪魔になり

取材と称し出動し　行きつけでコーヒーすすり　頃合いよく帰社し

出張旅費精算に専念し　いただく物はいただくが

ここでも　官公庁同様に　出張先との議事録はない。

他人のフトコロ具合を　云々する趣味はないが

年俸　1000万～2000万円だそうで　TV多出ともなれば

推して知るべしで　アロン・アルファ付きの　吸着の世界。

そこで　若手社員達や派遣社員達が　いやしくも

社名と社の肩書を使うなら　講演料の何パーセントかは

社へ払いもどせと　言っているそうで

そう思うなら　若手社員もまだ

**「正義感」という簿外資産を**　維持していることになるが

この簿外資産も　いつの間にか　自然償却となる。

世間では　このような払い戻しを　「みかじめ料」とも言う。

結論　３：

結果は　世の事象と事態には　改革を叫びながら

自らは　改革とは縁なき　掛け声屋の集まり。

論説委員は　オエライとの相場だが　押し寄せる事態

差し迫った日常では　記事にするには

肝心な　**「裏どり」**の余裕と気持ちなど　さらさらなく

案ずるより　産むがやすしの現場で　刻々の様変わりに

妥協と結託し　これにて　社説の「一丁上がり！」となる。

論説委員の　日頃の主義・主張　それを踏まえた生活態度から

ご家族やご子弟　どこへ出しても恥ずかしくはないほどに

立派に成長されているはずである。

立場を返して

オヤジ　又は愚息や愚娘が　社説風の調子で　かっ歩すれば

子　又はオヤジは　どう反応するのか？

井原西鶴　今の世に在りせば

「斜説一代男」「捨説伝頼記」「謝説永代暗」

「写説胸算幼」「煮説諸国話」「本紙二十不考」を

浮世草子に　ものしたのでは。

そこで　一考し　あるべき社説には：

提示する対策に　実行価値と成果価値を見出せる

「膨らみ」と「響き」があるはずで

それを可能にするのが　環境を見抜き　実態を見抜き

人間を見抜き　それらが構成する　組織と体制と能力を見抜き

戦術と戦略を峻別し　内外を見抜く　地政学と知性学を具え

対策を提示できる　凄さを必要とするので

単なる文屋ではできない。

批判するだけでは　意味がないので　提案をするなら：

①簡易食堂の　日替わりメニューのように

お題目を　毎日唱えることを廃し　週刊社説へ改善

⓶社説を　事後でいいので　社内の批判にさらす

　若手社員に意見を言わせ　社内研修の題材にする

③意見を言わせるだけでなく　自分ならどのように処するか

　書かせる

④社説欄を　特等指定席にせず　そのスペース（場所取り）を

大きくしたり　小さくしたりで　柔軟に対応する

　これは　外国の新聞が採用している

⑤執筆者を　古手のトコロテン方式で決めず

男女・性別・年齢に関係なく　社の優れ者を使い

さらに　彼らを　さらなる優れ者に育てる

⑥執筆者を固定せず　定期的に入れ替え　緊張感を持たせ

社と社説の活性化を図る

⑦停滞する　職場では

下剋上なくして　社説と新聞社の改革はできない。

大衆も民衆も　ついこの間まで　メディアにも踊ろされ

「おもてなし」「ふれあい」に浮かれたが

招かざる今の危機の時代　押し寄せる社会的混乱に対し

自分の命や人間性のあり方を　考え直すきっかけを

与えられたと　思うしかない。

小生　若き頃　「新聞は社会のボクタク」と聞かされ

想像力が　逞しいのか　はたまた　乏しいのか

お坊さんが　座してポンつく叩く木魚と

思っていた時期がある。

社説側も　願ってもない　この状況に直面しているとき

今までの「薄っぺら手法」の主張では

今の現実の　すさまじい社会では　通用しないことを　悟られよ。

**こうなると　社説に対して　次の様な言辞が意味を持つ**

**社説風に言うなら**

***「社説の執筆者は　対策を明確に提示できるよう***

***スピード感を持って　万全の体制で　執筆し***

***その責務を果たしたい」***